

「弱拍」や「誤った強拍」の概念に関する説明

「弱拍」や「誤った強拍」の概念を理解するために、ビート、小節、フレーズの定義を理解する必要がある（前ページ参照）。

「弱拍」、またはいわゆる「誤った強拍」という音楽用語の前提として、1小節に含まれるビートや2小節のフレーズに含まれるビートは強さがどれも等しいわけではないという事実がある。

例えば、4分の4拍子では、1小節の始めのビートが最も強いビートであり、1小節の3番目のビートが次に強い。2番目と4番目のビートは等しい強さだが1番目と3番目に比べて弱い。

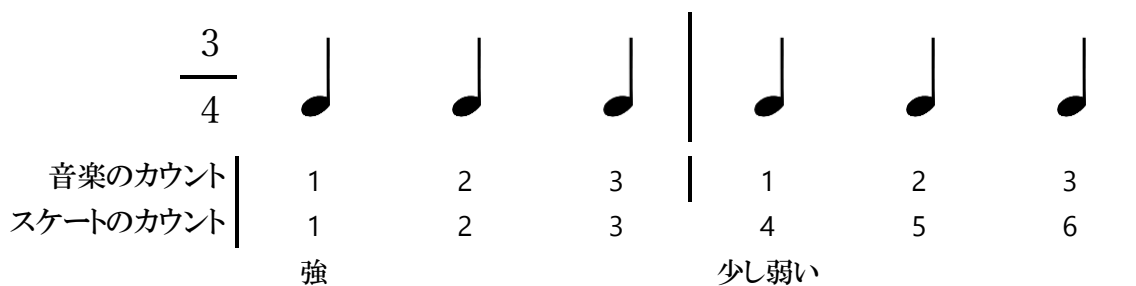


4分の3拍子、すなわちワルツでは、各小節の始めのビートがやはり最も強いビートであり、2番目と3番目のビートは等しい強さで、1番目のビートに比べて弱い。

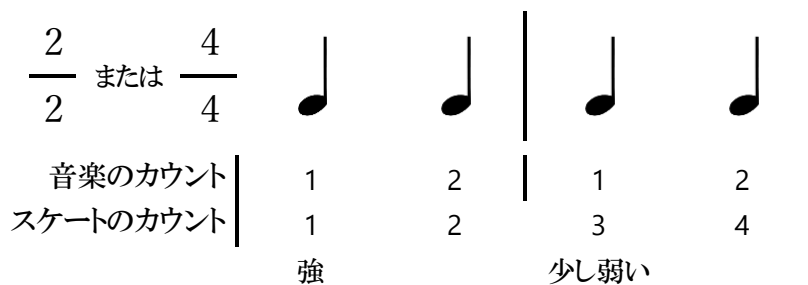


これはヨーロピアン・ワルツで最も分かりやすく、すべてのステップは長さが3ビートで、各小節の1カウント目で始まる。

しかしながら、他のワルツでは要求されるスケートのカウントに合わせて、2つの小節を合わせて1つのフレーズとする。この場合、各フレーズの始めの小節の1番目のビートがそのフレーズの中の2番目の小節の1番目のビートより強くなる。



同様に他の 2 拍子や 4 拍子のダンスでも以下のようにすることがある（例：フォーティーンステップ）。



強拍とそれより強くない拍や弱い強拍があるということは、いくつかのパターンダンスの滑走に影響がある。

アイスダンスの規程では、タンゴ・ロマンチカを除く全てのパターンダンスにおいて、ダンスの最初のステップがその小節の最初のビートで滑走しなければならないと定めている。スケーティング・カウントに合わせるために2小節のフレーズが必要となるあらゆるダンスにおいては（例えば、アメリカン・ワルツ、パソドブレ、フォーティーンステップなど）、最初のステップはそのフレーズの最初の小節の1番目のビートでなければならない。

アメリカン・ワルツやその他のいくつかのワルツにおいては、6ビートのエッジすべてが2小節からなるフレーズと合っていることが**重要**である。

例えば、もしスケーターがブルースやフォックス・トロット、タンゴの中で、1番目のビートではなく3番目のビートでステップを開始してしまった場合、カップルが音楽のテンポに合わせて滑走していても、表現には悪影響となる。同様に、ワルツ（ヨーロピアン・ワルツでなく、特にアメリカン・ワルツ）において、もし誤った強拍、すなわち2つ目の小節の1番目のビートで滑走した場合、表現と印象は精彩を欠く感じになる。

ほとんどのスケーターとジャッジは、何が誤っているかはわからなくても、何かが誤っていることに気づくだろう。これが、弱拍での滑走、誤った強拍での滑走と呼ばれるものであり、重大なエラーである。

ジャッジは、カップルが要件に従ってダンスを滑走しているかどうかを正確に評価するために、それぞれの曲の強拍を**感じ**、かつ認識することが大切である。

誤った強拍でダンスを始めてしまう主な原因の一つに、助走部分のステップのタイミングが正しくなかったり、適切でなかったりすることがある。カップルは、ダンスの最初のステップを小節またはフレーズの1番目のビート（強拍）で滑走できるようにするために、助走部分のステップが確実に正しい拍数を含むようにしなければならない。

追加の確認のために、それぞれのダンスの中で特定のステップを使って、そのダンスが音楽に対して正確に滑走し、滑走し続けているかどうかを判定することができる。確認ポイントを以下に示す。

ブルース：	ステップ7 (RFO)、1番目のビートで開始して4ビートを維持する。
フォーティーンステップ：	それぞれのロールが2小節からなるフレーズの1番目のビートで開始する。
アルゼンチン・タンゴ：	ステップ2 3（女性のLFO）、1番目のビートでツイズルが開始する。
ルンバ：	ステップ5（LFO）、1番目のカウントで開始し、4ビートを維持する。
ウエストミンスター・ワルツ：	ステップ1 3（男性のLFO SwCtr、女性のRFI SwRk）、それぞれのエッジが1番目のビートで開始し、ターンの前に6ビートを維持する。

もっともよくある音楽の解釈のエラーは、スケーティング・カウントの1を弱拍または誤った強拍で滑走していることで、これは確実にエラーである。

スケーティング・カウントの1を、ワルツにおいては音楽カウントの2番目や3番目、その他のダンスにおいては音楽カウントの2番目や4番目で滑走した場合、これはタイミングのメジャーエラーであり、厳しく減点しなければならない。